

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	仙台リゾート&スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
文化教養専門課程	スポーツ&アクティビティ科	夜・通信	8 単位	7 単位	
	スポーツビジネス科	夜・通信	9 単位	7 単位	
	アスレティックトレーナー科	夜・通信	11 単位	10 単位	
	スポーツトレーナー科	夜・通信	8 単位	7 単位	
	スポーツ IT トレーナー科	夜・通信	9 単位	7 単位	
	スポーツ保育科	夜・通信	12 単位	10 単位	
(備考) ・スポーツ IT トレーナー科は 2026 年度生より募集停止となったため 2 年生のみ在籍。 ・スポーツ保育科は 2026 年度生より募集停止となったため 2、3 年生のみ在籍。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」を職員室に設置し、広く一般に公開
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	仙台リゾート&スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	R7.6.16～ R7.6.16 から 4 年以内に終 了する会計 年度のうち 最終のもの に関する定 時評議員会 の終結の時 まで	法務
非常勤	弁護士	R7.6.16～ R7.6.16 から 4 年以内に終 了する会計 年度のうち 最終のもの に関する定 時評議員会 の終結の時 まで	法務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	仙台リゾート&スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては学生より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。 原則として法人統一の様式を使用し、客観的に分かりやすい「授業計画」「到達目標」「成績評価基準」を作成・公表している。 公表はインターネットによる他、授業内で当該学生へ説明する。また、習熟度等に応じて授業計画が変更される場合は、都度説明を行うものとする。(公表の時期は毎年度4月を目途とする)	
授業計画書の公表方法	https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sendai-sports/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果(試験、レポートの他、平素の履修状況等)を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 全履修科目の評定(5点法で示されたもの)の和を科目数で除したものを「評定平均」とし、年に2回(期末ごとに)一覧管理を行うことで、成績の分布状況を把握する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sendai-sports/schoolinfo.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sendai-sports/schoolinfo.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	仙台リゾート&スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
財産目録	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
事業報告書	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/kanjikansa.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	スポーツ&アクティビティ科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位	73 単位	62 単位	4 単位	0 単位	38 単位
			177 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		47 人	0 人	6 人	10 人	16 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては学生より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
（概要） 教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。

卒業・進級の認定基準
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。 <目指すべき人材像> インストラクターとして、主にグループレッスンに必要な知識・技術を身につけ、人々を惹きつける魅力あるレッスンを展開し、健康づくりのためのプログラム提供と運動指導ができる。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35 人 (100%)	0 人 (0%)	31 人 (88.6%)	4 人 (11.4%)
(主な就職、業界等) トレーニングジム、スイミングインストラクター、フィットネスクラブ、ボディメンテナン、高齢者福祉施設、幼児体育指導員			
(就職指導内容) 就職ガイダンスとして業界の企業講話や卒業生講話の実施、個人面談、履歴書添削、模擬面接練習などの指導を行う。また、担任のみならず、業界に強い就職担当教員のダブルサポート体制を敷き、就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 健康運動実践指導者、フィットネスクラブマネジメント技能検定、PHI Pilates Basic Exercise Instructor、JCCA アドバンスストレーナー、JATI 認定トレーニング指導者			
(備考) (任意記載事項) 学科名称変更前（2025 年度生以前）のスポーツインストラクター科の情報を記載。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		

(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに面談を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームの紹介や授業の補講の実施、担任以外の教職員からのサポート体制を敷くなど、全教職員間での連携を図り、学生の少しの変化にも気付けるように取り組んでいる。
--

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	スポーツビジネス科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	62 単位	47 単位	70 単位	10 単位	0 単位	0 単位	
			127 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人		83 人	0 人	4 人	7 人	11 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては学生より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
(概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。 <目指すべき人材像> あらゆるスポーツの特性や、スポーツ業界に関わる幅広い知識を有し、社会や消費者が求める商品の開発や提案ができる。また、スポーツを通じて 健康や感動を提供するためのイベントの企画や運営ができる。

学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33 人 (100%)	1 人 (3%)	31 人 (93.9%)	1 人 (3%)
(主な就職、業界等) スポーツメーカー、スポーツ用品店、スポーツ施設マネジメント 等			
(就職指導内容) 就職ガイダンスとして業界の企業講話や卒業生講話の実施、個人面談、履歴書添削、模擬面接練習などの指導を行う。また、担任のみならず、業界に強い就職担当教員のダブルサポート体制を敷き、就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) フィットネスクラブマネジメント技能検定、スポーツイベント検定、販売士、スポーツボランティアリーダー			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
77 人	6 人	7.8%
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應、進路変更、病気療養		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに面談を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームの紹介や授業の補講の実施、担任以外の教職員からのサポート体制を敷くなど、全教職員間での連携を図り、学生の少しの変化にも気付けるように取り組んでいる。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化教養	文化教養専門課程	アスレティックトレーナー科	○	

修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	93 単位	122 単位	11 単位	9 単位	0 単位	31 単位
			173 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		118 人	0 人	5 人	7 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては学生より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2 月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
（概要） 教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。 <目指すべき人材像> アスレティックトレーナーの資格を取得し、アスリートだけでなく、健康増進や機能改善を目的としたクライアントに対し、アスレティックトレーニング指導ができる。
学修支援等
（概要） クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	1 人 (4.3%)	21 人 (91.3%)	1 人 (4.3%)

(主な就職、業界等) 治療院、ボディメンテナンス、フィットネスクラブ、トレーニングジム 等
(就職指導内容) 就職ガイダンスとして業界の企業講話や卒業生講話の実施、個人面談、履歴書添削、模擬面接練習などの指導を行う。また、担任のみならず、業界に強い就職担当教員のダブルサポート体制を敷き、就職指導を行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、JATI 認定トレーニング指導者、健康運動実践指導者、赤十字救急法救急員、健康運動指導者
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88 人	3 人	3.4%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気療養		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに面談を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームの紹介や授業の補講の実施、担任以外の教職員からのサポート体制を敷くなど、全教職員間での連携を図り、学生の少しの変化にも気付けるように取り組んでいる。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	スポーツトレーナー科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位	34 単位	42 単位	4 単位	0 単位	24 単位
			104 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320 人		157 人	0 人	6 人	14 人	20 人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては学生より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2 月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。

成績評価の基準・方法
（概要） 教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。 ＜目指すべき人材像＞ トレーナーとして、基本的な姿勢・動作分析と評価ができ、レジスタンス トレーニングやコンディショニング、機能改善に必要なスキルを習得し て、幅広い層・ニーズに応じた運動プログラムの作成、指導ができる。
学修支援等
（概要） クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
89 人 (100%)	3 人 (3.4%)	74 人 (83.1%)	12 人 (13.5%)
（主な就職、業界等） トレーニングジム、フィットネスクラブ、ボディメンテナンス、高齢者福祉施設			
（就職指導内容） 就職ガイダンスとして業界の企業講話や卒業生講話の実施、個人面談、履歴書添削、模擬面接練習などの指導を行う。また、担任のみならず、業界に強い就職担当教員のダブルサポート体制を敷き、就職指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） JATI 認定トレーニング指導者、健康運動実践指導者、JCCA アドバンスドトレーナー、スポーツ栄養実践アドバイザー、（公財）日本サッカー協会公認キッズリーダー			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
175 人	10 人	5.7%
(中途退学の主な理由) 学校生活不適応、進路変更、就職、病気療養		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに面談を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームの紹介や授業の補講の実施、担任以外の教職員からのサポート体制を敷くなど、全教職員間での連携を図り、学生の少しの変化にも気付けるように取り組んでいる。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	スポーツ IT トレーナー科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	62 単位	21 単位	23 単位	2 単位	0 単位	3 単位	
			49 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
80 人		7 人	0 人	3 人	3 人		6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては学生より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2 月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
(概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。

<目指すべき人材像> トレーナーとして ICT ツールを駆使して科学的に分析・解析された運動・トレーニング(競技・ストレングス・コンディショニング)をクライアントの ニーズに合わせて提供できる。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (83.3%)	1 人 (16.7%)
(主な就職、業界等) トレーニングジム、ソフトウェア開発			
(就職指導内容) 就職ガイダンスとして業界の企業講話や卒業生講話の実施、個人面談、履歴書添削、模擬面接練習などの指導を行う。また、担任のみならず、業界に強い就職担当教員のダブルサポート体制を敷き、就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) JATI 認定トレーニング指導者、JCCA アドバンスドトレーナー、PHI Pilates Basic Exercise Instructor、ウェブ解析士			
(備考)（任意記載事項） 2026 年 4 月から募集停止のため、今年度は 2 年生のみ在籍			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14 人	1 人	7.1%
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに面談を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームの紹介や授業の補講の実施、担任以外の教職員からのサポート体制を敷くなど、全教職員間での連携を図り、学生の少しの変化にも気付けるように取り組んでいる。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	スポーツ保育科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	93 単位	42 単位	16 単位	15 単位	0 単位	12 単位	
			85 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数
120 人		19 人	0 人	2 人		11 人		13 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては学生より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2 月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
（概要） 教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。 ＜目指すべき人材像＞ 幼稚園や保育園、幼児体育施設などの先生として、こどもの発育発達を理解し、運動遊びや体操指導を通して、こどもの個性・成長を総合的にサポートすることができる。
学修支援等
（概要） クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (80%)	1 人 (20%)
（主な就職、業界等） 保育所、幼稚園 等			
（就職指導内容） 就職ガイダンスとして業界の企業講話や卒業生講話の実施、個人面談、履歴書添削、模擬面接練習などの指導を行う。また、担任のみならず、業界に強い就職担当教員のダブルサポート体制を敷き、就職指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 保育士資格、幼稚園教諭二種免許状、社会福祉主事			
（備考）（任意記載事項） 2026 年 4 月から募集停止のため、今年度は 2、3 年生のみ在籍			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに面談を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームの紹介や授業の補講の実施、担任以外の教職員からのサポート体制を敷くなど、全教職員間での連携を図り、学生の少しの変化にも気付けるように取り組んでいる。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
スポーツ&アクティビティ科	100,000 円	690,000 円	352,568 円	施設設備費・教材実習費
スポーツビジネス科	100,000 円	690,000 円	368,880 円	施設設備費・教材実習費
アスレティックトレーナー科	100,000 円	690,000 円	376,658 円	施設設備費・教材実習費
スポーツトレーナー科	100,000 円	690,000 円	431,538 円	施設設備費・教材実習費
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sendai-sports/		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制） 学校関係者として、関連分野の業界関係者、卒業生、ならびに地域に根差した関連企業等の中から4名を選出し、学校関係者評価委員会を設置する。 委員の選出区分は、企業関係者、卒業生、保護者等とし、当該学校の教職員は委員となることができないものとする。 同委員会においては、教育目標および教育活動について評価を行うものとし、主な評価項目は、教育課程、進路指導、学生支援、教育環境等とする。 評価に当たっては、「専修学校における学校評価のガイドライン」に定める評価項目を用いて実施した自己点検・自己評価の結果を基に行うことを基本方針とする。 また、評価結果は学校のホームページで公表するとともに、委員会で得られた意見については速やかに集約し、各業務担当者へフィードバックする。 さらに、評価結果を踏まえた改善方策については、実施時期および責任者を明確にした上で計画的に実行し、学校運営の改善に活用するものとする。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
リーフラス株式会社	2026年4月1日～ 2027年3月31日	企業等委員
株式会社ルネサンス	2026年4月1日～ 2027年3月31日	企業等委員
フリーランス(スポーツトレーナー)	2026年4月1日～ 2027年3月31日	卒業生
学校法人 三幸学園 仙台みらい高等学園	2026年4月1日～ 2027年3月31日	高等学校

第三者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sendai-sports/
(備考)
第三者評価未実施（実施準備中）

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sendai-sports/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H104391020052
学校名（〇〇大学 等）	仙台リゾート&スポーツ専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 三幸学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		115人（ 55）人	107人（ 47）人	118人（ 57）人
内 訳	第Ⅰ区分	42人	38人	
	（うち多子世帯）	（ 11人）	（ - 人）	
	第Ⅱ区分	18人	17人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅲ区分	14人	15人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	17人	15人	
	区分外（多子世帯）	24人	22人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0）人
合計（年間）				118人（ 57）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	- 人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	- 人
計	0人	0人	- 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	- 人
3月以上の停学	0人
年間計	- 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	- 人	0人	- 人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	- 人	0人	- 人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	- 人	- 人	- 人
計	- 人	- 人	- 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。